

「第二章

読み物資料の活用例」

町内会デビュー（1―3） 1～2年）

一 ねらい

自主的に考えて自分を律して生きていこうとする道徳的実践意欲を育てる。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

本資料の道徳的論点は、他律の状態から、自主的に判断し自律的に行動しようとは変化したところにある。はじめ母に言われていやいや町内会の作業に参加した明が、作業の中でお年寄りにはきつい作業を、自ら進んでしようとするところを中心として生徒に考えさせることが大切である。

(2) 資料の概要

町内会の草刈り作業に家庭の代表として参加して欲しいと母親から頼まれた明は仕方なく参加する。町内会の人に教えられながら草刈り作業をしていくうちに、お年寄りには重労働である仕事があることに気付き、自ら進んで作業をする。そのことによって、町内会の人々に、中川家の代表として受け入れられる。自分も少し大人になったような気がし、母のカレーが甘いとを感じる。翌日から自ら進んで町の人々とかわろうとする。

三 展開例

- 黙って台所を出て行った明は、どんなことを考えていただろう。
- ・ 家の事情は分かるけど嫌だ。
- ・ 知らない人の中で、浮いてしまうのが心配だ。
- ・ 部活動も休まなければならないし、どうにかならないのか。
- ・ お母さんの頼みだし、仕方ないか。

- ザクツ、ザクツと草を刈っている明はどんな気持ちだったのだろう。

- ・ 嫌だった気持ちがなくなった。
- ・ いい気分。
- ・ ほめられてやる気が出た。

- ◎ 明はどう考えて「よし。」と草や木を集めて運び始めたのだろう。

- ・ 力のいる仕事は、若い僕にできることだ。
- ・ 年寄りには大変そうだ。

- ・ 草を刈っているより、こっちをしてあげたほうがいい。

- 背筋を伸ばして大股で学校へ向かった明はどんなことを思っていただろう。

- ・ いつまでも子どもじゃないんだ。もう中学生なんだ。
- ・ これからは自分でいいと思ったことはどんどんやろう。
- ・ 中川家の代表だもんな。あいさつもちゃんとしなくては。

- 「心のノート」の「自分のことは自分で決めたい」（二十六～二十九頁）を活用し、自主自律について考えさせることができる。

四 指導上の留意点及び工夫

- ・ 「背筋を伸ばして大股で学校に向かった明はどんなことを思っていただろう。」の代わりに「いつもの母の味のカレーがちょっと甘いと感じたのはなぜか。」と聞くこともできる。

スイッチ (1―3) 2(3年)

一 ねらい

自主的に考え、自律の精神を重んじ、誠実に実行しようとする道徳的実践意欲を育てる。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

中学生の時期は、干渉されずに自分の力で物事をやりたいという気持ちが高まるが、困難に直面した時には他人に依存しがちである。本資料は、指導者不在により、頼る者がいないことに不安を抱く主人公の姿を通して、顧問の先生への依存心に気付かされる。ライバル校の監督の「試されているんだぞ。」という言葉をつかき、依存心乗り越え、自主的に考えて行動しようと切り替えていくところを中心に生徒に考えさせたい。

(2) 資料の概要

主人公の絵里は、全面的に頼っていた顧問の坂先生が入院で不在の中、卓球部のキャプテンに選ばれる。「坂ノート」を頼りに練習メニューを組むが一年生から不満の声が出る。悩んだ絵里は、由美と共に病院を訪れる。何も話せずに帰ろうとした時、見舞いに来ていたライバル校の監督の「君たち、試されているんだぞ。」の言葉で、自主的、自律的精神の大切さに気付き、スイッチを切り替える。

三 展開例

○ 県大会で、一回戦の様子を観客席から見ている絵里は、どんなことを思っていただろう。

・坂先生がいない試合は不安だ。

・ライバル校は監督がいるのに、自分たちだけでやれるのか。試合中に困った時にどうすればいいのだ。

○ 一年生からの不満の声に、「いいの、これが城南の練習なんだから。」と答える絵里はどんな気持ちだったのだろう。

・坂先生のノートのとおりにやっているのにどうしてだろう。

・坂先生がいたらこんなことにはならないのに。

・坂先生のいない部活をまとめるのはやはり無理だ。

◎ 「スイッチ切り替えよう！」と言う絵里は、どんなことを考えたのだろう。

・坂先生に頼っていいはだめだ。自分たちで何とかしよう。

・自分で考えて練習メニューも作り直してみよう。

・頼ってばかりで自分たちで考えなかった。

・先生に言われた通りにするだけでなく、自分たちでもっと進んでやろうとしなければ。

■ 「心のノート」の「自分のことは自分で決めたい」(二十六―二十九頁)を活用し、「自律」について考える。

四 指導上の留意点及び工夫

・本資料は、あくまでも自律ということを考えさせることが大切である。

ネット将棋（1―3） 2（3年）

一 ねらい

誠実に実行し、その結果に責任をもとうとする道徳的判断力を培う。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

中学生の時期は、自主的に考え、行動ができるようになるが、一方では、自由の意味をはき違い、自分の行為が自分や他人にどのような結果をもたらすかを深く考えられない面も見られる。

スポーツには勝敗を宣告するレフェリーがいるが、将棋や囲碁は対局者の一方が自分の負けを宣言することで終局となる。対局者双方の自主性自律性が不可欠のゲームである。

本資料は、その自主性自律性を無視し、一方的に試合を中断させてしまう僕の人間的な不誠実さが道徳的な論点となっている。誠実とは、真心を持って他者に接する生き方である。

(2) 資料の概要

誠実な態度でネット将棋を楽しみ、実力を伸ばす敏和とは対照的に、僕はネット将棋を楽しめず、気分や感情に支配されて不誠実に振る舞っている。そうした折、智子や明子と話している敏和の「自ら『負けました。』『目には見えない相手とどう向き合うかで、自分が試されてる気がして』という言葉聞いて、三人が笑い合っ中で、僕は一人笑えなかった。

三 展開例

- 一手一手に考え込んでいるふりをして、徹底的に時間稼ぎをしている僕はどんなことを考えているのだろう。

- ・ 負けを認めたくない。
- ・ 敏和に負けられるか。

- ・ なぜ、敏和がこんなに強くなっているのか。

- どう考えて、僕はネット将棋でいきなりログアウトしたのだろうか。

- ・ 相手が誰だか分からないし、また自分が誰かも知られていないからまあいいか。

- ・ 相手が弱くても強くても面白くないから。

- ・ こんなので敏和が強くなったなんてほんとか。

- ◎ 敏和のツッコミに明子と智子は笑ったが、僕が笑えなかったのは、どんなことを考えているからだろう。

- ・ ネットで相手が見えないからととんでもないことをしていたのだ。

- ・ 負けから学ぶということなんだ。

- ・ 勝ち負けでなく相手と誠実に対戦する姿勢が大切なんだ。

- ・ 相手が目の前にいるかどうかにかかわらず、いつでも誰にでも相手の立場を考えることが必要なんだ。

- 「心のノート」の「中学生だもの 自分がすることは結果まで深く考える」（二十八―二十九頁）を活用したい。

四 指導上の留意点及び工夫

- ・ ネット社会における匿名性は、ややもすると無責任で攻撃的な言動と結び付きやすいが、こうした機器を有益に活用するためには、他人の立場や結果に対する責任を熟慮した上で誠実に実行していくことがなければならないことを深く考えさせたい。

違うんだよ、健司（2―3） 1～2年）

一 ねらい

友情の尊さを理解し、友達を心から信頼して互いに励まし合い高め合おうとする道徳的实践意欲を育てる。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

中学生になると、悩みや喜びなどを同世代の友達に理解してもらいたいという気持ちが強くなる。また、集団の中で一人になることを極端に恐れ、互いに友達であることを常に確認しようとする。しかし、いったん得た友達を失うことを避けるために、表面だけ合わせて同調している場合も多い。本当の友達とは何かを考えさせ、相手の成長を心から願って互いに励まし合い、忠告し合える信頼関係を育てることの大切さを自覚させる。

(2) 資料の概要

僕のクラスに転校してきた健司は、僕が耕平に対して適当に合わせていることに対して「そんなのが友達と言えるか。」と言う。生活が乱れがちになった耕平を心配して、健司は三人で親戚の家に遊びに行こうと誘う。そこで出会った健司の祖母とその友達の会話や様子を見て、三人は、友達とは本来どうあるべきかを知る。

三 展開例

○ ショッピングセンターで、健司に「そんなのが友達と言えるか。」と言われた僕は、どう思っただろう。

- ・別に普通じゃないか。
- ・堅いことを言うなよ。
- ・適当に合わせておいた方が気楽でいいんだよ。

○ 「いや、ちょっとな。」と耕平に言われた僕は、どうしてそれ以上聞かなかったのだろう。

- ・聞いてはいけないことなのかな。
- ・あまりたいしたことはないだろう。
- ・耕平が言わないのなら、別にいいか。

◎ 夏の大三角を見ながら僕はどんなことを思っているだろう。

- ・健司のおかげで本当の友達というものが分かった。
- ・適当な関係でいいと思っていた自分は、耕平にとっても健司にとっても本当の友達ではなかった。

- ・本当の友達っていいなあ。

- ・思うことを言える間柄っていいなあ。

■ 「心のノート」の「太陽みたいにくらきら輝く生涯のたからもの」（五十二～五十五頁）を活用し、「友情」について考える。

四 指導上の留意点及び工夫

- ・僕、耕平、健司の人物設定をはっきりさせておく必要がある。特に健司については、現実離れた「良い子」というイメージで読まないように注意する。

- ・板書は、三人のそれぞれに対する思いが一目で分かるように、図示するなどの工夫をするとよい。

- ・「本当の友達」という発言が出た時には、「本当の友達とは何か」と、再度問いを深めるとよい。

嵐の後に（2―3） 2（3年）

一 ねらい

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合おうとする道徳的実践意欲を育てる。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

今の子どもたちの友人関係は、表面的で非常にもろい状態であると言われる。本資料は、嵐という異常な事態に遭遇して心の中を打ち明け合う二人であるが、特別な時や場面だけでなく、日常の中においてもそのような願望があることを考えさせることが必要である。

(2) 資料の概要

子どもの頃から何でも話し合える仲だった勇太と明夫だが、高校生の頃から明夫が派手な仲間とつきあうようになっていく。水産高校を出てから定職につかないままの明夫を心配して勇太の親父が自分の船に乗せようとする。漁師見習いとして船に乗った明夫の仕事ぶりはいい加減でやる気が見えなかった。ある日、嵐に襲われ、危険と恐怖の中で、勇太が危険を顧みず明夫を助ける。これがきっかけとなって、明夫が心の内を打ち明け、勇太も「待ってっただぞ。」と二人の友情が確かなものとなる。

三 展開例

- 親父に「上っ面だけで付き合ってるんじゃないぞ。」と言われて、勇太はどんなふうに受け止めたのだろう。
- ・ 浅い友達関係を見抜かれた。
- ・ 上っ面で嵐の海と一緒に乗り越えられると思うのか。
- ・ いざとなったら命をかけて助け合え。

- 「ぐずぐずするなっ、波に飲み込まれるぞ。後は俺がやる、ブリッジに入れっ。」と言った勇太はどんな思いだったのか。

- ・ 明夫を死なせられない。
- ・ 俺が守らなければ。
- ・ 夢中だった。

- 「待ってっただぞ。」と言うと明夫が「分かっただよ……、だから、戻ってきた、ここに。」と言う。この言葉を聞いた時、勇太はどんなことを思ったのだろう。

- ・ ずっと心配していた自分の気持ちは通じていた。
- ・ 自分がきちんと向き合えば良かったんだ。

- ◎ 顔を見合わせて、がっちり手を握り合った勇太は、どんなことを思っているのだろう。

- ・ 仲の良かった頃の二人に戻ったな。
- ・ 俺は本当の友達で在^あれた。

- ・ 親父たちのように助け合って一緒に船に乗れる。

- 「心のノート」の「太陽みたいいきらきら輝く生涯のたからもの」（五十二―五十五頁）を活用し、「友情」について考える。

四 指導上の留意点及び工夫

- ・ 本来は、主人公の勇太で発問するが、「顔を見合わせて、がっちり手を握り合った」時の明夫の気持ちを問うことも、友情を深く考える一つの方法である。

言葉の向こうに (2) (5) 1 (2年)

一 ねらい

それぞれの立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもとうとする道徳的判断力を育てる。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

インターネットには友人や仲間、同じ趣味・関心をもった人々と多様な交流手段がある。中学生になるとパソコンを使用する機会も増え、関心のあるサイトを見付けて、ネットでの交流を楽しんだり、情報交換したりする経験をもつ生徒も出てくる。様々な情報を入手したり、顔の知らない人々と交流したりすることで、ネット社会の魅力を体験するとともに、様々なトラブルに出会うことも多くなるといえよう。

主人公が置かれたような状況は、ネット社会にアクセスしていれば誰もが経験するような出来事である。自分の発する言葉の先に、それを受け取る「顔を持った他者」がいると想像すること、ネット社会におけるよりよいコミュニケーションのためにはどうすべきかを考えさせたい。

(2) 資料の概要

主人公はヨーロッパのサッカーチームのA選手のファンで、インターネットでファン仲間との交流を楽しんでいる。ある試合をきっかけに、心ない書き込みが続いたことに怒った主人公は自分もひどい言葉で応酬して注意されてしまう。自分の気持ちが理解されないことで、あらためて顔の見えないネットでの言葉のやり取りの難しさや恐ろしさに直面した主人公は、読み手を忘れてしまってい

た自分に気付く。

三 展開例

○ 必死で反論する私の言葉がだんだんエスカレートするのはなぜだろう。

・ファンとしてA選手の悪口を言われっぱなしにできないから。

・ファンサイトに悪口を書くのは許せないから。

・売り言葉に買い言葉で、相手が見えない匿名だから書きやすい。

○ 「中傷する人たちと同じレベルで争わないで。」という書き込みを見て、私はどんなことを思っているだろう。

・悪いのは悪口を書いてくる方だ。

・負けてたまるか。

・私は悪くない。

◎ 画面から目を離して椅子の背にもたれた私は、どんなことを考えていただろう。

・読む人の気持ちをまったく考えていなかった。

・ネットのコミュニケーションって難しい。

・直接会って話している時よりも神経を使わなくてはならないのだ。

・ネットって言葉じりにこだわって、ゆとりをもって受け止められない。

・自分の言いたいことばかりになって相手のことをじっくり考えない。

■ 「心のノート」の「いろいろな立場があり考えがある」(六十～六十三頁)を終末で読んで考える。

四 指導上の留意点と工夫

・いわゆるインターネット使用上のエチケット指導をねらいとするのではなく、道徳の主題(内容項目)をきちんと押さえる。

一 ねらい

多くの人々の善意や支えに気付く、それに感謝し、こたえようとする道徳的心情を高める。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

本資料は、主人公が野球部のキャプテンという設定で、キャプテンとしての役割・責任を果たそうとする場面が描かれているが、道徳的論点は、主人公がチームメートの温かい心に気付く、それに感謝するところにある。

(2) 資料の概要

甲子園を目指してS高校に進学した主人公は、キャプテンとなった。新人戦で負けた後のチームのやる気のなさに部員たちを注意しとがめるうちに、みんなの心が自分から離れ悩む。そんな中、右肘を故障しプレイができなくなる。野球を止めようかとつづやいた時、父親から一喝され、自分のできることをして野球を続けようと決心した主人公は、部員を見つめ、世話をする。夏の大会の前にして思いがけず背番号10をもらう。この時起こるチームメートの温かい拍手によって主人公は、部員の善意や支えに気付く、それに感謝する。主人公は補欠のキャプテンとしてベンチ入りし、甲子園出場が実現する。

三 展開例

- 医者にボールを投げないように言われ、家への帰り道、僕にはどんなことが浮かんできたのだろう。
- ・ 何のために父の反対を押し切ってS高校に来たのか分からない。

・ これで甲子園は絶望だ。

・ 試合にも出られないキャプテンなんて存在意味がない。

・ 部員もやる気がないみたいだし、いつそのこと野球をやめようか。

- 「お前の野球に対する思いは、そんなもんだったのか。」と父に一喝された夜、布団に入ってもなかなか寝付けなかった主人公は、どんなことを考えたのだろう。

・ レギュラーになる、ならないということだけか。

・ 本当に僕は野球が好きなのか。

・ 裏方、支える人がなくては野球はできないのではないか。

- ◎ 深々と頭を下げた僕はどんなことを思っているだろう。

・ 監督。続けて良かったです。ありがとうございます。

・ 拍手してもらうなんて。僕が背番号もらったら、選手が一人少なくなるのにすまない。ありがとう。

・ 怪我をしたからこそチームプレイの意味が分かった。

・ 父さん、野球への思いに気付かせてくれてありがとう。

- 「心のノート」の「ありがたい心の贈り物に：」「『ありがたい』の思いを込めて」（六十四～六十七頁）を活用して、自分を支えている人々について考える。

四 指導上の留意点及び工夫

- ・ 中心発問で「ありがとう」という言葉が生徒から出てきた時は、誰に対してのどういう「ありがとう」なのかを更に問うとよい。

帰郷（2―6） 2（3年）

一 ねらい

多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに気付き、それに感謝し、こたえようとする道徳的心情を育てる。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

本資料は、主人公が故郷へ帰り、故郷の人々の温かさを知るという設定である。

中学生の時期は、自立心が強まり、自分の力を過信することもあり、自分の力だけで生きていると錯覚することもある。主人公が帰郷先で町の人々から感じたことに共感し、多くの人々の善意や支えによって、日々の生活や現在の自分があることを考えさせる。

(2) 資料の概要

東京で俳優となった主人公が、脳卒中で母親が倒れたという連絡を受け、故郷の病院へと急ぐ。夜遅く病室に着くと、子どもの頃からお世話になった老夫婦が母親を見守っており、母親の無事を告げられる。翌日、主人公は、老夫婦や母親が開いていた居酒屋の常連客の温かさに触れる。リハビリが必要な母親に東京で暮らそうと言うが、母親は首を横に振る。そんな主人公に老夫婦が、母親の面倒を見ると切り出す。町の人々と母親・自分とのつながり、人々の善意や支えに気付き、母親が離れたくないという町のぬくもりを感じながら、いったん東京に戻る。

三 展開例

○ 東京を出て、病室に着くまで、私は、どんなことを考えていただろう。

・ 母は大丈夫だろうか。
・ 間に合うだろうか。

○ 老夫婦が病室に持ってきてくれたチャーハンを押し頂くように受け取った私の胸には、どんな思いがこみ上げてきたのだろうか。

・ 母だけでなく自分のことまで気遣ってくれてありがたい。
・ 大人になった自分に対して、子どもの頃と同じようにしてくれることへの驚きと感謝の気持ち。

◎ 来た道を引き返す電車の中で、優しさに包まれていると思っ
て私は、どんな思いでいるのだろう。

・ これまで自分のことしか考えてなかった。

・ おじさん、おばさんへの感謝の思い。

・ 常連客や雅也の優しさをありがたく感じる。

・ 自分一人で俳優になったと思っていたが、母や町の人たちみんなに支えられていたからこそこんなわがママができたんだ。

■ 「心のノート」の「ありがたい心の贈り物に：」（六十四～六十五頁）の文章を黙読させるなどして余韻をもつて終わる。

四 指導上の留意点及び工夫

・ 最初の発問には余り時間をかけない。母の病気のことを心配していることが出ればよい。

・ 主人公が帰郷を通じて、自分たち親子を支えていたのは、老夫婦や町の人々の善意によることに気付くことが重要である。主人公の母親への感謝にとどまることなく、母親を支えている老夫婦や町の人々の優しさや町のぬくもりを感じて東京に戻る主人公の心の変化を感じ取らせる。

絶やしてはならない——緒方洪庵——(3—1) 1—2年)

一 ねらい

かけがえない生命を尊重しようとする道徳的心情を養う。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

本資料は、猛威をふるう天然痘から人々の生命を救うために、粘り強く牛痘種痘法を広げようとする洪庵の生き方を描いている。盛んに長崎に蘭学が入ってくる頃に生きた緒方洪庵が、人々を天然痘から救うために、牛痘苗を待ち続け、分苗し、これを絶やしてはならないという思い、すなわち3—1(1)を道徳的論点として考えさせる。

(2) 資料の概要

江戸時代、天然痘で多くの生命が失われていた。当時の人痘種痘法は危険を伴うものだった。ヨーロッパで安全性と有効性が認められている牛痘種痘法があることを西洋の医学書で知っていた洪庵は、牛痘苗が日本に来るのを待ち続けていた。そこへ日本での牛痘種痘法の成功が伝えられ、洪庵は福井藩の痘苗を分けてもらうことになる。大阪での牛痘種痘は、接種すれば牛になる等人々の無知と反対勢力の誹謗中傷にさらされたが、洪庵はあきらめず、自腹を切つて、種痘を続けた。やがて、牛痘種痘法の実績が上がるにつれて町の人々は変わり始める。

三 展開例

○ 甥と姪に人痘種痘を試みたが、腫れて発熱したのをみて、村の子どもには接種しなかったのはどうしてだろう。

- ・ 人痘種痘法は危険を伴うから。
- ・ 絶対に安全なものを用いたい。
- ・ 牛痘苗を使って生命を何とか助けたい。

○ 誹謗中傷にあっても、洪庵はどんな思いで接種する子どもを捜させたのだろう。

- ・ 種痘の苗を絶やしてはならない。
- ・ これで必ず命が救えるのは間違いないのだから。
- ・ 続けていたら、必ず分かってくれる人は出てくる。

◎ 門弟の言葉に目を細めてうなずく洪庵は、どんなことを思っているだろう。

- ・ これで子どもたちの命が救われる。
- ・ 天然痘の痕が残ったり失明したりする人もなくなる。
- ・ 家族が欠けることなくそろって生きていける。
- ・ もっと早く日本に入つて来ていたら死なずにすんだ人たちがいるのに。

■ 「心のノート」の「生と死について考えよう」(七十五頁)を活用することもできる。

四 指導上の留意点及び工夫

- ・ WHOは、一九八〇年に世界天然痘根絶宣言を出した。江戸時代には四割もの人々が天然痘に罹患しており、毎年人口の1%以上が減少するほどの猛威を振るつた。こうした高い感染率と死亡率から、天然痘は当時、原因不明の恐るべき伝染病と恐れられていた。
- ・ 洪庵は、「医の世に生活するは人の為のみ、己がために非ずといふ事を其業の本旨とす」と『扶氏医戒之略』に述べ、医者戒めとしている。

・ 事前に緒方洪庵の伝記等を読ませておくのもよい。

【写真提供】財団法人洪庵記念会

キミばあちゃんの椿（3―1） 3年）

一 ねらい

生命の尊さを理解し、かけがえのない生命を精一杯生きようとする
道徳的実践意欲を培う。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

中学生の時期は、比較的健康に毎日が過ごせる場合が多いためか、自己の生命の大切さを感じている生徒は少ない。また自分の悩みに閉じこもり、生命のかけがえのなさに思いが及ばず、生命軽視の軽はずみな言動につながることもある。本資料は、病弱な広瀬淡窓が、医師倉重の助言によって生き方を変えたのを知って、裕介がこれまでの生き方を変えろという構図である。「何のために生きるのかな、生きていても仕方がないのじゃないか」と苦しむ裕介が、人間の生きる意味について考え、生命を尊重しようとする生き方に変化するところを中心に考えさせる。

(2) 資料の概要

病氣のために入院を繰り返している裕介は「何のために生きてるのかな、生きていても仕方がないのじゃないか」と悩んでいる。そんな裕介にキミばあちゃんは、同じように病弱で、自分の生き方を憂い悩んだ広瀬淡窓という人物と、淡窓の実践した「万善簿」を紹介する。裕介は淡窓の生き方を知り、自分の考えの甘さに気付く。

三 展開例

○ 裕介は、なぜ、「何のために生きてるのかな、生きていても仕方がないのじゃないか」と思ったのだろう。

- ・ 病氣がちで入院退院を繰り返していて苦しい。
- ・ 親にも心配や迷惑ばかり掛ける。
- ・ 元気になれると言いつつも聞かせていても、なかなか元気にならない。
- ・ 生きる意味が分からない。
- ・ 病氣だからできることがない。

○ 裕介は広瀬淡窓の生き方や「万善簿」のことを知って、どんなことを考えたのだろう。

- ・ 僕と同じように病弱だったけど、意味のある人生を生きたんだ。
- ・ 健康であるか、病弱であるかは生き方には関係ないのだ。
- ・ よいことをして生きることが大切なんだ。

◎ 裕介は、キミばあちゃんの手をぐつと握りしめて、どんなことを考えているのだろう。

- ・ 生きていても仕方ないなんて、考えていたけど、ちゃんと生きるよ。

- ・ 生命を考えさせてくれてありがとう
- ・ 病氣に負けてはいけなくてよかった。
- ・ 自分だけが苦しいのではないんだね。

- ・ 周りの人々が自分のことを気に掛けていることも忘れないよ。

■ 「心のノート」の「生命を考える」（八十四～八十七頁）を活用し、生き方について考えさせる。

四 指導上の留意点及び工夫

・ 「生き切る椿」が象徴的意味を持っている。人間の生命のみならず、身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊厳にも気付かせたい。

闇の中の炎（4―1） 1～2年

一 ねらい

法やきまりの意義を理解し、遵守しようとする道徳的判断力を養う。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

中学生は、集団や社会における法やきまりの意義や大切さについて理解が進む一方で、法やきまりを外から自分たちに与えられたものとして表面的に従うだけになったり、自由な生き方を束縛するものと捉えて反発したりする傾向もみられるようになる。

本資料は、理沙が画集からヒントを得て絵画を制作しようとしたが、その途中から自分の行為が間違っているのではないかという意識が出てくる。ヒントを得ることが著作権法に違反しているかどうかということが問題ではなく、後ろめたさを感じる自分自身のだめだという意識が規範意識である。この規範意識を育てることが大切である。

(2) 資料の概要

コンクールに出す作品の下絵提出を控えて理沙は、アイディアが浮かばず苦しんでいたが、父に買ってもらった画集の版画にヒントを得て作品を構想する。しかし、作品が仕上がっていくにつれ、真似た気がして悩む気持ちが大きくなっていく。父にそれとなく相談した際に父が発した言葉から、自分がこの作品を完成させることはできないと、理沙は新たにスケッチブックに鉛筆を走らせる。

三 展開例

○ 締切が迫っているのに、理沙の筆を持つ手が止まりがちになるの

はどうしてだろう。

- ・ 人の絵を真似しているという声が聞こえてくる。
- ・ アイディアだけでもらって、テーマも別のものでかきいいと自分に言い聞かせても描けない。

○ 理沙はどう考えて、父に「有名な画家の作品を真似して描くのは悪いことじゃないよね。」と相談したのだろう。

- ・ 間違っていないと言ってもらおう。

- ・ 誰にでもあることだから気にすることないと保証してもらおう。

- ・ 自分のしたことを正当化したい。

◎ 夢中でスケッチブックに鉛筆を走らせる理沙は、どんなことを考えているだろう。

- ・ 自分がだめだと思うものはだめなんだ。

- ・ よいといわれても本当の自分の作品ではないものは出せない。

- ・ 完成できなくても、自分のものを描こう。

- ・ これでいいのだ。間違いない生き方をしよう。

■ 「心のノート」の「自由な世の中なんだから、他人に迷惑をかけない方がいいじゃないかって…。」（九十二頁）という一文を取り上げ、本当にそれでいいのかと投げかける。

四 指導上の留意点及び工夫

- ・ 規範意識を育てるためには、自分の中に確固とした行為の基準を持つことが必要である。「このぐらいいいじゃないか」と言い訳せず、「自分で自分を許せない」という主人公の生き方への共感を引き出すことによって、自ら規範意識を育てることの大切さが実感できるようにする。

仏の銀蔵（4―1） 2（3年）

一 ねらい

社会の法やさまりの意義を理解し、規範意識を高めることによって、秩序や規律のある社会を築こうとする道徳的実践意欲を育てる。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

本資料は、借金をごまかすこともできたのに、「貧しいが、盗人にはなりたくねえ。」「お天道様が見てござる。」と、借金を返す村人の規範意識に焦点をあてて考える。

(2) 資料の概要

高い利息をつけて金を貸しては厳しい取り立てをしていた銀蔵が、ある日、大切な証文綴りをカラスに持っていかれ、貸した金の取り立てができなくなる。証文綴りを返すから、賽銭箱に二十両を入れよという手紙の指示通りにしたが、証文綴りも金も返ってこなかった。しばらくして銀蔵が苦しい生活をするようになると、銀蔵を恐れ、憎んでいた人々が、証文綴りが無くても自分から借金を返し始める。不思議に思い、尋ねると「貧しいが、盗人にはなりたくねえ。」「お天道様が見てござる。」との答えにぼかんとする銀蔵だった。

三 展開例

○ なぜ銀蔵は二十両を賽銭箱に入れてでも、証文綴りを取り返そうとするのだろうか。

- ・ 証文が無いと人々が貸した金を払わないから。
- ・ 商売が成り立たないから。

○ いくら証文綴りを突きつけても借金を払わなかった人々が一人ま

た一人と借金を返し始めたのはなぜだろう。

・ 銀蔵の姿をみてかわいそうと思った。

・ 証文綴りが無くても、借りたものは返すのが決まりで返さないと盗人と同じになってしまう。

・ 借金をごまかして、人の道に外れる生き方はしたくない。

◎ 「そうか、お天道様か。」と膝を打つ銀蔵は、どんなことが分かったのだろうか。

・ お天道様に恥ずかしくない生き方をしなくては。

・ 人間は本当はいいものなんだ。

・ 人々の苦しい生活ぶりとか人々の気持ちを考えずに自分の儲けのことだけしか考えていなかった。恥ずかしいな。

■ 「心のノート」の「縛られたくないのはみんな同じ」（九十二―九十三頁）を活用して、人々の規範意識の重要さに気付かせたい。

四 指導上の留意点と及び工夫

・ 金融業への批判に繋がらないように注意する。借金の取り立て、返済の請求を問題にするのではなく、銀蔵や人々の道徳的な心情を読み取らせたい。

・ 人々が、証文綴りが無くても自主的に借金を返したのは、苦しい生活をする銀蔵が哀れであったからではなく、借金をごまかすことが人の道に外れるという意識にあることを押さえたい。

・ 法やさまりに従えばそれでよしとするのではなく、自分の内にある規範意識に従って行動しようとする道徳的実践意欲を育てたい。

鳩が飛び立つ日―石井筆子―(4―2) 2～3年

一 ねらい

社会全体に目を向け、よりよい社会の実現に努めようとする道徳的実践意欲を育てる。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

中学生になると、自らの所属集団を越えて、社会全体の在り方に向けるようになる。理想の社会を描くこともできるようになると同時に、現実の社会の醜さや問題点を目にして許せないと思う気持ちも強くなり、既存のものに対する反発だけが大きくなってしまいうこともある。しかし、そうした反発の背後には、よりよい社会を実現したいという思いが隠れている。本資料の主人公は、困難の中でも諦めず、よりよい社会の実現に向かって努力し続けている。その姿に出会うことで、進んで社会とかかわる積極的な生き方への意欲を引き出していきたい。

(2) 資料の概要

女子教育の充実に力を注いでいた筆子は、知的障害のある幼い二人の子どものことで心が晴れなかった。石井亮一から知的障害児教育の夢を聞き、共感し共に歩む決心をする。学園の火災で子どもたちを失ったことに強いショックを受けるが、子どもたちのために再び立ち上がり、自らの選んだ道を進み続ける決意をする。

三 展開例

- 筆子はどう考えて、これまで育ててきた女学校を仲間に譲り渡し、亮一の歩む道とともに進もうと決めたのだろう。
- ・ 亮一の夢を実現させたい。

- ・ 弱い人を助けるために私のことをやろう。

- ・ 娘たちや障害のある子どもたちに教育を受けさせたい。

- 娘の幸子が学園で描いた絵や作品を手にとって見つめながらどんなことを考えただろう。

- ・ 強くなろう。

- ・ 学園の子どもたちを守り育てるのが自分の使命だ。

- 火事の後、学園を廃止する決意をした亮一に黙ってうなずいた筆子はどんな気持ちだったのだろう。

- ・ 社会から見放された子どもたちを守れなかった。

- ・ 自分の使命と思っていたのは思い上がりだった。

- ◎ 筆子はどう考えて学園を続けようと決意したのだろう。

- ・ 学園存続を願っている人にこたえよう。

- ・ 自分が強い人ではなく、子どもたちに助けられていたことに気付く。

- ・ 子どもたちに居場所をつくるのだ。

- ・ 障害のある子どもたちが学び、働く可能性を開かねばならない。

- 「心のノート」の「あなたはどんなかたちで社会連帯を実現できるとしようか」(九十八頁)と問いかけ、考えさせる。

四 指導上の留意点及び工夫

- ・ 筆子の福祉活動が、単に娘の居場所という個人的なものではなく、社会の中で弱い立場の者全てに視点を置いて活動をしたことを押さえる。

- ・ 事前に石井筆子の伝記等を生徒に読ませておくのもよい。

【写真提供】社会福祉法人滝乃川学園

ロッキンローラー（4―（8） 1～2年）

一 ねらい

地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努めようとする道徳的実践意欲を育てる。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

中学生の時期は、自分の住む地域社会に無関心であることが多い。本資料では町の将来に無関心であった主人公が、地域の人々の熱い思いに触れて、人々と力を合わせて魅力ある地域にしようとするところに焦点をあて、生徒に郷土愛を考えさせる。

(2) 資料の概要

浩美は、隣町に大型スーパーができることを聞き、これで商店街も終わるかと思ったが、家業のそば屋の出前先で本屋の潤ちゃんから町興しの企画に誘われる。大学の友達と一緒に話合いの会に参加し、ロッキンバンドを組んで大型スーパーと商店街の共存作戦を考えている潤ちゃんたちに触発された浩美は、自分も一緒に商店街のためにがんばろうと立ち上がる。

三 展開例

○ 本屋の潤ちゃんから「友達集めろ。」と言われた私は、どんなことを考えていたのだろう。

- ・ 大型スーパーが出店して商店街が打撃を受けるのは仕方がない。
- ・ そば屋の跡継ぎになる気はないので、商店街にあまり関心はない。
- ・ 町興しをなぜ自分がやらなければいけないのか。
- ・ 潤ちゃんは何を考えてるんだ。

○ 本屋の二階で話合いをしていて、私もだんだん楽しくなって、他の友達にも声を掛けようと思ったのはどうしてだろう。

- ・ 潤ちゃんたちおじさんの熱気に面白さを感じた。
- ・ アイディアがいろいろ出てきた。
- ・ 「昭和の若いもん」と「平成の若いもん」の世代を超えた話合いが以外と楽しい。

◎ 「銀転商店街四代目か。悪くないね。……よし。」といって立ち上がった私は、どんなことを考えていただろう。

- ・ おじさんたちには負けていけない。私もがんばるぞ。
- ・ おじさんたちと一緒に行動したら面白そうだ。
- ・ 時代の流れに逆らえないと思っていただけ、時代は自分たちがつくれそうだ。

- ・ 大型スーパーと共存する方法をみんなで探していこう。
- ・ 銀転商店街のこれからは一緒に切り開くぞ。

■ 「心のノート」の「マっていました！」（百三十四～百三十五頁）を活用し、地域社会と自分の関わりについて考える。

四 指導上の留意点及び工夫

・ バンド合戦をやることで、急に商店街が生まれ変わるわけではないが、地域に生活する人々が集まって、共に考え、行動し続けることが郷土の発展につながることに気付かせたい。

真の国際人―嘉納治五郎―（4―10） 1（2年）

一 ねらい

世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立つて、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする道徳的心情を育てる。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

本資料の前半は、東京へのオリンピック招致に至るまでの嘉納のIOC委員としての努力が描かれている。後半は、嘉納の生い立ちから柔道の道と教育者の道について簡単に触れている。エピソードは嘉納の心が受け継がれ、東京オリンピック開催につながったことを書いている。国際理解としては、オリンピックを通して世界文化の創造に託した嘉納の思いを理解し、生徒が国際的視野に立つて世界の中の日本人としての自覚をもち得るように考えさせたい。

(2) 資料の概要

講道館柔道を創始した嘉納治五郎は、教師となり、様々なスポーツを通じて生徒の身体と心の錬成を目指していた。IOC委員を依頼された嘉納は、武道的精神とオリンピック精神が融合すれば、オリンピックが真の世界の文化になると確信する。たった二名の選手をオリンピックに派遣することから始め、日本開催を反対するIOC委員に流暢な英語で反論し、ついに第十二回大会の東京でのオリンピック開催を決めた。戦争によってそれは幻となったが、嘉納の心は受け継がれ、没後二十六年の一九六四年、念願の東京オリンピックが開催された。

三 展開例

- 嘉納は、どう考えてオリンピック招致運動に動き始めたのだろうか。
- ・ 日本国民の間にオリンピックに対する理解が広まっていた。

- ・ 欧米だけで開かれていたのでは、世界のオリンピックとはいえないから、ぜひ日本開催をすべきだ。

- ・ オリンピックを世界的な文化にするため。

- ・ 武道的精神とオリンピック精神の融合を図ろう。

- 嘉納は日本開催を反対するIOC委員を前に、どんな考えで反論をしたのだろうか。

- ・ ヨーロッパの都合を言っていたのでは、オリンピックは本当に世界のものにはならない。

- ・ 日本も遠方から参加しているのだ。

- ◎ 受け継がれた「嘉納の心」とは何だろう。

- ・ 日本でのオリンピック開催でオリンピックが真の世界文化になる。

- ・ 西洋と東洋の融合を図ること。

- ・ スポーツを通して心も体も向上するという信念。

- ・ 国や人などの差異を越えて、平和でよりよい世界をつくりたい。

■ 「心のノート」の「日本人としての自覚をもつて」（百三十六―百三十七頁）を活用し、世界の平和と人類の幸福について考える。

四 指導上の留意点及び工夫

- ・ 平沢和重は、元外交官で、当時放送局の解説委員。東京オリンピック招致スピーチは、怪我をしてドイツに出掛けることができなくなった人の代役であった。一時間の持ち時間のうち、スピーチに使った時間はわずか十五分。国語の教科書を片手に印象的なスピーチであったという。嘉納治五郎の氷川丸での最後の十一日を共に過ごし、語り合った人物がスピーチするという奇縁も紹介できよう。

- ・ 事前に嘉納治五郎の伝記等を生徒に読ませておくのもよい。

【写真提供】講道館 フォート・キシモト

海と空―樫野の人々―（4―10） 2、3年

一 ねらい

世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って同じ人間として尊重し合おうとする道徳的心情を育む。

二 資料の特質

(1) 資料の生かし方

国際理解の理想の実現のために基本となることは、どこの国の人々も同じ人間として尊重し合い、差別や偏見をもたずに公正、公平に接することである。本資料はトルコ航空機に救出された主人公が、エルトゥールル号遭難の際に樫野の人々が示した献身的行為を知ることによって、国際的規模の相互扶助を実感する。樫野の人々の思いとトルコ航空機の邦人救出に通底する精神の象徴的光景としての「海と空」が一つになった水平線に焦点をあてたい。

(2) 資料の概要

イラン・イラク戦争のさなかの昭和六十年、テヘランに取り残された邦人が二機のトルコ航空機に救出された。その中の一人であった私はなぜトルコなのか疑問を抱いたまま二十年が経っていた。トルコ人が親日的である理由の一つが、明治二十三（一八九〇）年、紀伊大島の樫野崎で座礁したエルトゥールル号の遭難事故にあることを知る。トルコ記念館を訪れ、樫野の人々が六十九名のトルコ人の救助・帰国を献身的に支えた事実が分かる。トルコ航空機による邦人救出に重ねて考えることで、ただただ危機に瀕した人々を助けたいとの共通の思いを、はつきりと意識したのであった。

三 展開例

○ 私は、なぜトルコ記念館を訪れたのだろう。

・トルコ航空機に救出されたが、どうしてトルコが飛行機を出してくれたのかを確かめるため。

・トルコが親日的である理由を確かめるため。

○ 「わしらもトルコの方も一緒じゃ。」と飼っていたニワトリを差し出した樫野の人々には、どんな思いがあったのだろう。

・困っている時に助けるのは当たり前。

・人の命に国の違いはない。

・同じ人間だ。

◎ 海と空が水平線で一つになるのを見つめながら、私はどんなことを思っているだろう。

・私の命は、樫野の人々によって今ここにあるのだなあ。

・二つの救出は、何の見返りも期待せずに危険に陥った人々を助けようとする人間愛そのものだ。

・同じ人間として互いに尊重し合う心が世界平和に大切なことだ。

■ 「心のノート」の「世界の平和と人類の幸福を考える」（百二十八～百二十九頁）が活用できる。

四 指導上の留意点及び工夫

・資料への興味を高めるため、「樫野崎灯台」「船甲羅」「エルトゥールル号」「慰霊碑」「トルコ記念館」「沖周村長の日記」等の写真を提示して、臨場感に溢れた実話の世界に浸れるように工夫することもある有効である。

【写真提供】和歌山県串本町教育委員会

小学校第5学年及び第6学年	中学校
1 主として自分自身に関する事	
(1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。	(1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。
(2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。	(2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。
(3) 自由を大切に、自律的で責任のある行動をする。	(3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。
(4) 誠実に、明るい心で楽しく生活する。	
(5) 真理を大切に、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする。	(4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。
(6) 自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。	(5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。
2 主として他の人とのかわりに関する事	
(1) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。	(1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。
(2) だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。	(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。
(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。	(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。
	(4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。
(4) 謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすること。	(5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶ。
(5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。	(6) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。
3 主として自然や崇高なものとのかわりに関する事	
(1) 生命がかけがえないものであることを知り、自他の生命を尊重する。	(1) 生命の尊さを理解し、かけがえない自他の生命を尊重する。
(2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にする。	(2) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。
(3) 美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。	
	(3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める。
4 主として集団や社会とのかわりに関する事	
(1) 公徳心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切に、進んで義務を果たす。	(1) 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。
	(2) 公徳心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。
(2) だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。	(3) 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。
(3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。	(4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。
(4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。	(5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。
(5) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。	(6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。
(6) 先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。	(7) 学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。
(7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。	(8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。
	(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。
(8) 外国の人々や文化を大切にする心を持ち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。	(10) 世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。

○「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表

小学校第1学年及び第2学年	小学校第3学年及び第4学年
1 主として自分自身に関すること	
(1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。	(1) 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。
(2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。	(2) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。
(3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う	(3) 正しいと判断したことは、勇気をもって行う。
(4) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。	(4) 過ちは素直に改め、正直に明るい心で元よく生活する。
	(5) 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす。
2 主として他の人とのかかわりに関すること	
(1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。	(1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。
(2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。	(2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。
(3) 友達と仲よくし、助け合う。	(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。
(4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。	(4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。
3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること	
(1) 生きることを喜び、生命を大切にする心をもつ。	(1) 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。
(2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。	(2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にすること。
(3) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。	(3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。
4 主として集団や社会とかかわりに関すること	
(1) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。	(1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。
(2) 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。	(2) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。
(3) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。	(3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。
(4) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しむ。	(4) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。
(5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。	(5) 郷土の伝統と文化を大切に、郷土を愛する心をもつ。
	(6) 我が国の伝統と文化に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ。

作 成 協 力 者（五十音順）

飯 塚 秀 彦	群馬県伊勢崎市立四ッ葉学園中等教育学校教諭
石 黒 真 愁 子	埼玉県さいたま市立春岡小学校教頭
荊 木 聡	大阪教育大学附属天王寺中学校教諭
植 田 和 也	香川県教育委員会事務局東部教育事務所主任管理主事
鴨 井 雅 芳	東京都目黒区立第三中学校主幹教諭
川 上 孝 生	神奈川県相模原市教育委員会指導主事
五 條 し お り	埼玉県立大学教授
小 林 仁 美	富山県立山町立雄山中学校教諭
齋 藤 直 子	聖パウロ学園高等学校副校長
柴 原 弘 志	京都市教育委員会指導部長
白 木 み ど り	上越教育大学准教授
鈴 木 由 美 子	広島大学大学院教授
立 花 昭 一	福岡県北九州市立沖田中学校主幹教諭
谷 田 増 幸	兵庫教育大学大学院教授
西 野 真 由 美	国立教育政策研究所総括研究官
蘆 原 桂	山梨県甲府市立伊勢小学校教頭
藤 永 芳 純	大阪教育大学名誉教授
水 登 伸 子	広島県広島市立安佐北中学校教諭
横 山 利 弘	関西学院大学教授

（職名は平成 24 年 2 月現在）

なお、文部科学省においては、次の者が本書の編集に当たった。

塩 見 み づ 枝	初等中等教育局教育課程課長
美 濃 亮	初等中等教育局教育課程課学校教育官
澤 田 浩 一	初等中等教育局教育課程課教科調査官

